

第 1 号議案 2017 年度事業・活動報告

<活動のまとめ>

1. 古着類の回収とアル・カイル事業グループへの送り出し

1) 古着・毛布などの回収 2017 年度計画：回収量 120 トン（計画対比 85%）※資料別紙

	回収期間	回収量	送付人数
1 回目	2017 年 9 月 1 日～12 月 31 日	36,516.6 kg	7,285 人
2 回目	2018 年 1 月 1 日～ 4 月 30 日	27,237.4 kg	4,292 人
3 回目	2018 年 5 月 1 日～ 8 月 31 日	37,933.7 kg	5,431 人
	合計	101,687.7 kg	17,008 人

2017 年度の回収は、計画を 120 トンとしました。センターでの回収受付期間は年に 3 回もうけました。回収実績は前年度とほぼ同量の 101.7 トンとなり、計画に届きませんでした。

回収協力団体の大地を守る会の配送便回収は 1 回目まででしたが、合併をして(株)オイシックス・ラ・大地になり、オイシックスでも回収の広報（2 回目から）をしていただき新しい参加者が増えました。センター周辺の人たちには、回収のポスターをセンターに掲示し、年 2 回行なうセンターバザールなどの地域配布チラシには案内を掲載して呼びかけました。イベント会場では、主催者の協力を得て回収を行ない 4079 kg（9 回実施：前年度実績 1209 kg）集まりました。イベントでの回収や回収協力団体でのチラシ折込みは効果があり、情報を伝えたり参加しやすい方法を工夫したりすることで、回収量を増やすことは可能だと考えられる結果となりました。ホームページは今年度初めにリニューアルをしましたが、参加する方の人数と回収量は前年比 83%に減りました。

会員・支援メンバーの方からの送付は 11,429 キロで、回収量の 11.2%（延べ 1,359 人）になりました。ご協力ありがとうございました。

（協力団体の方々からの回収は、「6. 多様な団体との連携」と資料をご覧ください）

2) AKBG への古着送り出し

計画した 4 回の送り出しを実行しましたが、回収量が計画を下回ったため、第 62 回コンテナは輸出用の古着が不足し、コンテナを満杯にして送り出すことができませんでした。

	JFSA コンテナ積み込み	AKBG 受渡し・倉庫着	送り出し量
第 59 回	2018 年 1 月 31 日	2018 年 3 月 14 日	23,806 kg
第 60 回	2018 年 4 月 25 日	2018 年 6 月 13 日	23,617 kg
第 61 回	2018 年 7 月 4 日	2018 年 8 月 17 日	24,163 kg
第 62 回	2018 年 9 月 26 日	2018 年 11 月到着予定	23,200kg
合計			94,786kg

2. AKBG との事業連帯の推進とアル・カイルアカデミーの自立支援

1) 事務局の派遣

事務局派遣を以下の目的で実施しました。

① AKBG 事業活動の推進

i 古着販売事業

JFSA、グリーンコープ、ハンサリム生協連合のコンテナ荷下ろし、及び AKBG 価格交渉への立会い

新規事業について AKBG との協議

ii 縫製工房の事業の推進。

協力団体によるオーダー品に関する業務

iii 洪水被災地ダドゥの進捗状況確認

② アル・カイルアカデミー教育事業の視察

i 本校、分校についてそれぞれの現況の確認

インタビュー(生徒、先生、家族)、労働現場の訪問、家庭訪問など

ii 青空学校の今後について確認

③ 危機管理についての確認

④ JFSA 総会企画・招日企画の相談

派遣期間	事務局	同行者
10月30日～11月9日	入江賢治	ハンサリム生協連合 4名
11月1日～6日	田邊紀子	環境まちづくり NPO エコメッセ理事長
11月24日～12月8日	田辺航太郎	
3月5日～14日	桑山奈々	JFSA アルバイトスタッフ 1名
3月5日～15日	依知川守	オイシックス・ラ・大地 (株) 2名 グリーンコープ連合 6名
4月9日～23日	田邊航太郎 (パキスタン→バンコク)	
4月13日～23日	入江賢治 (パキスタン→バンコク)	
7月27日～8月1日	田辺航太郎	古着ショップ「vintage clothing ALASKA」 2名
8月1日～9日	依知川守 小島慧	ボランティア 1名

2) 古着販売事業

JFSA からは 4 本のコンテナを輸出しました。グリーンコープ・ファイバーリサイクル事業部からは 3 本、韓国のハンサリム連合からは 1 本のコンテナが輸出されました。コンテナはすべて卸業者ワリー氏・ニアーズ氏に販売されました。コンテナの到着に合わせて事務局を派遣し、卸売価格交渉に参加しました。第 59 回のコンテナ荷下ろしには立ち合い、古着等の受渡しの確認を行ないました。第 60・61 回は税関の検査があったために港からの搬出が遅れ、立ち会うことができませんでした。

2017 年度の JFSA コンテナの卸価格平均 (第 59～61 回) は 89 ルピーで前年度(103 ルピー)を下回る事になりました。卸業者ニアーズ氏の主な販路であるアフガニスタンの関税率の上昇やイランの古着輸入禁止などマーケットの変化が卸価格に影響を与えています。近年、パキスタンの古着輸入量は増加しており、中国から大量に流入する安価な古着も相場価格に影響を与えていると言われています。また、JFSA の回収量が不足した結果、パキスタンでの販売価格が高い輸出用品目 (女性下着やハンカチ、毛布等) の

回収量も比例して減少し、輸出量の減少が卸価格を下げる要因となりました。

連帯事業の拠点を新しくカラチ市内に作ることを目指して調査を行ない、双方の理事会で討議を重ねて計画を立てました。アジア民衆基金から融資を受けることも検討されています。

新たな販路や活用方法を検討するために、日本国内やパキスタン、タイのリサイクル事業者を訪問し、調査しました。それにより JFSA が輸出している衣類等の価値を理解するとともに、仕分けや回収方法の再検討が必要だと認識しました。

【資料】 JFSA第59回、第60回、第61回、第62回AKBG古着販売事業収支

	第59回(2018年3月到着)	第60回(2018年6月到着)	第61回(2018年8月到着)	第62回(2018年11月到着予定)	合計 ※収入合計は61回まで
古着等送出货量	23,806kg	23,617kg	24,163kg	23,200kg	94,786kg
収入合計	2,261,570ルピー	2,125,530ルピー	1,957,203ルピー		6,344,303ルピー
①卸販売	2,261,570ルピー	2,125,530ルピー	1,957,203ルピー		
卸売価格	95ルピー/kg	90ルピー/kg	81ルピー/kg		
*レート	1ルピー:0.95円	1ルピー:0.93円	1ルピー:0.84円		
経費合計	1,365,076ルピー	1,212,532ルピー	1,354,600ルピー		3,932,208ルピー
①日本サイド	848,034ルピー	772,245ルピー	872,846ルピー		2,493,125ルピー
②パキスタンサイド	517,042ルピー	440,287ルピー	481,754ルピー		1,439,083ルピー
*1kg当たり経費	57ルピー/kg	51ルピー/kg	56ルピー/kg		
純利益	896,494ルピー	912,998ルピー	602,603ルピー		2,412,095ルピー
純利益(円建て)	851,669円	849,088円	506,187円		2,206,944円
				前年度純利益(第55~58回)	5,228,459ルピー

【資料】 グリーンコープ第16回、第17回、第18回AKBG古着販売事業収支

	第16回(2018年3月到着)	第17回(2018年8月到着)	第18回(2018年11月到着予定)	合計 ※収入合計は17回まで	
古着等送出货量	25542 kg	25339 kg	26,584kg	77,465kg	
収入合計	1,915,650ルピー	2,179,154ルピー		4,094,804ルピー	
①卸販売	1,915,650ルピー	2,179,154ルピー			
卸売価格	75ルピー/kg	86ルピー/kg			
*レート	1ルピー:0.94円	1ルピー:0.9円			
経費合計	1,190,736ルピー	1,224,932ルピー		2,415,668ルピー	
①日本サイド	824,996ルピー	860,902ルピー		1,685,898ルピー	
②パキスタンサイド	36,5740ルピー	364,030ルピー		729,770ルピー	
*1kg当たり経費	47ルピー/kg	48円/kg			
純利益	724,914ルピー	954,222ルピー		1,679,136ルピー	
純利益(円建て)	681,419円	858,800円		1,540,219円	
				前年度純利益(第13~15回)	2,992,212ルピー

【資料】 ハンサリム連合第2回AKBG古着販売事業収支

	第2回(2018年6月到着)	合計
古着等送出货量	25028 kg	25028 kg
収入合計	1,626,820ルピー	1,626,820ルピー
①卸販売	1,626,820ルピー	
卸売価格	65ルピー/kg	
*レート	1ルピー:0.9円	
経費合計	1,217,249ルピー	1,217,249ルピー
①韓国サイド	742,457ルピー	742,457ルピー
②パキスタンサイド	474,792ルピー	474,792ルピー
*1kg当たり経費	49ルピー/kg	
純利益	409,571ルピー	409,571ルピー
純利益(円建て)	368,614円	368,614円
	前年度純利益(第1回)	739,323ルピー

3) JFSA 海外古着販売

仕入先であるワリー氏や顧客とのコミュニケーションを密に取るよう努め、事業を潤滑に進められるように取り組みました。今年度の回収量が目標に大きく達しないことや、輸入物売るために従来出店しなかったイベントへ出店を進めた結果の好調を受けて、輸入経費は昨年度対比で 201.6%、予算対比で 219% となるほど仕入れを行ないましたが、売上も昨年度対比で 209.1% (柏店 9/23、千葉・FM8 月末現在) となりました。

4) 縫製工房

事務局派遣、招日の時に話し合う機会を持ちましたが、課題の整理とその対策について具体的な実行計画を立てることができませんでした。日本国内からの注文を予定通りに実行するために、事務局派遣、招日のスケジュールとあわせた製作の計画を立てましたが、計画通りに進めることができませんでした。日常的な確認はメールやライン通話で行ないました。

- ・地球市民交流基金アーシアン縫製工房製品開発に協力しました。アル・カイルアカデミーで実技研修を行なっているカディ(手織りの生地)で作った大判ハンカチ、実技研修講師ファハーズ氏のカディ工房の生地で作ったエプロンなどが製品化されました。

- ・グリーンコープFRセンターには、ゆうあいショップで販売する小物のサンプルを製作して届けましたが、取組みにはいたりませんでした。グリーンコープ食育ワーカーズのエプロンのオーダーを受けましたが、1回目の納品が遅れてしまいJFSAで検品できませんでした。

- ・生活クラブ東京50周年記念の取組み品の依頼を受け、エコバッグ500個のオーダーが決まりました。

- ・縫製工房開設時に技術指導していただいた佐々木さんから依頼を受け、彼女がデザインした製品の販売サンプルを作りました。

3. 国内事業

1) センター業務

①千葉センター

始業前にスタッフ間のミーティングを行ない、担当ごとの作業状況・内容の共有を図ることで、連携がスムーズになりました。スタッフ用の休憩室を設けました。

選別協力団体が定期的に選別作業を行ないました。コンテナ積み込みやチャリティバザールにも参加しました。団体間の寄り合いを2回行ないました。千葉ダルク、ワーカーズコープちばオアシスは野菜作りを行なっており、軒先市(千葉ショップ前にて毎月第二土曜日開催)での販売や、学習会(就労継続支援B型について)を実施しました。

②東葛センター

人出不足により各作業に複数人が当たれる体制を作ることができず、マニュアル化することができませんでした。直接古着を持ってきてくれる人数が大きく増えたことに合わせて、受付しやすいレイアウトに変更しました。その際に不用品等の整理を積極的に進めたことで、作業スペースや通路等を以前より広く作ることができるようになり、作業環境の改善につながりました。

2) ショップ販売

① 千葉ショップ

セールやイベントに合わせて広報宣伝を行ないました。これまでのチラシ・ハガキでの宣伝に加え、ブログを再開し、Instagram・フェイスブックを新たな宣伝ツールとして始めました。若い年代のお客さんの来店が増え、輸入古着の売り上げにつながっています。倉庫のオーナーの小川さんより、資材の寄付があり、店内の改装を行ない好評でした。JFSA 紡ぎ債の寄付金を使つての改装は、図面の作成と見積を行ないました。

② 柏店（古着ショップ^{カブレ}kapre）

店頭での張り紙や HP、SNS、タウン誌の掲載等を行ない、募集をしましたが、人手不足の解消にはつながりませんでした。売り上げは昨年度以上の結果となりましたが、古着回収の減少に伴い国内在庫が不足したため、輸入古着の取り扱いを増やすことで対応しました。

3) 街商販売（フリーマーケット、その他）

千葉銀座通り、大井競馬場、赤羽公園、池袋西口公園などのフリーマーケットに出店しました。

会場ごとの特性をつかみながら、古着フェスティバル、大井競馬場、味の素スタジアム、RAW TOKYO などを中心に売り上げを伸ばしました。着物販売にも力を入れました。着物販売には和衣マルシェちばのフェイスブックページも活用し、集客の効果が始まっています。

4) 販売協力団体との取り組み

各団体と協力し、季節やお客さんに合った品ぞろえ、定期的な商品の入れ替えを行ないました。

常連さんが付いてきたところもあり、売上も前年度よりは伸びましたが、目標達成にはいたりませんでした。

5) 市民活動と連動した企画

① 協力団体主催の企画、市民活動と連動した様々な企画

FR うらやすは市民祭り参加や着物市開催に協力いただきました。使いまわし工房は松戸市みらいフェスタ、エコメッセちばなどで協力いただきました。生活クラブ風の村とんぼ舎佐倉の直売会へ定期的に参加し、千葉ショップの新企画軒先市の協力出店に繋がりました。

② 支援バザール

JR 船橋駅北口デッキにて年 2 回（11 月・4 月）それぞれ土日 2 日間開催しました。敬愛大学生含めボランティアの皆さんに協力いただきました。

③ JFSA 主催のバザール

千葉センターは 12 月と 6 月、東葛センターは 12 月と 5 月にそれぞれ開催しました。千葉センターの 6 月のチャリティバザールは「児童労働反対世界デーキャンペーン」賛同企画として開催しました。

④ 着物市企画

和衣マルシェちばを、はぎれくらぶ麻の葉、その他の団体個人の協力により、毎月第 1 土曜日に開催しました。宣伝にはフェイスブックを活用しました。千葉ショップの DM にも情報を掲載し、徐々に定着し常連のお客さんもいますが、新規のお客さんを十分に増やすことはできませんでした。5 月には「和衣マ

ルシェちば×Tomo's Cafe@まる空間」というコラボ企画を開催し、売上につながりました。売れている品目を集計し、仕分け作業に活かしました。

上野公園や代々木公園イベントへ着物販売企画で出店参加しました。実行委員会による着物市を2月に生活クラブ柏センター、3月に生活クラブ千葉本部スペース渚にて開催しました。今後の継続にあたっては、告知方法や企画内容など見直しが必要です。FR うらやすの協力で、11月にリサイクル着物市を市民活動フェスティバル内（場所：wave101）で開催しました。また7月には、ゆかたまつりをFR うらやすが新しく事務所を開設した「まちづくり活動プラザ(旧入船北小学校)」で初めて開催しました。

⑤その他の実行委員会参加イベント

新松戸中央公園：4月、アースデイちば：5月（古着回収も実施）、ぼっぼの市：11月・4月（古着回収も実施）

4. 広報活動と会員の参加

1) 会員数の増減

	会員数（うち新規入会数）	前年比	口数	前年比	計画口数
会員（個人）	144名（16名）	-6	157口	-2	160口
支援メンバー（個人）	1,114名（127名）	-65	1,276口	-59	1,410口
会員（団体）	11団体（0）	±0	11口	±0	11口
支援メンバー（団体）	5団体（0）	-2	5口	-6	11口

（2018年9月末日）

古着の回収に参加した方には、回収の案内、古着のゆくえについてのお知らせと一っしょに入会の呼びかけを郵送しました（のべ約11000人）が、新規入会者は143名（2016年度160名）で、計画に届きませんでした。継続率は84.0%（2016年度84.9%）で、昨年度に比べ減っています。

会員・支援メンバーの方に今年度第3回の回収案内のお知らせを2部送り、知り合いの方への呼びかけをお願いしました。

2) 広報活動について

会報を年3回発行しました。アル・カイルアカデミーや、JFSAの活動の様子が伝わるよう、写真を大きくしました。回収案内を回収期間が始まる約1か月前に発送しました。回収量を増やすため、2017年度第2回回収（1月～）は、1年前の同時期に送っていただいた方にも送付しました。会報と回収案内、ショップのDMの郵送には寄せられた書き損じハガキや切手を使用しました。

パルシステム生活協同組合連合会発行「のんびる8月号」の「はじめてよかった」というコーナーの取材を受け、回収についても掲載していただきました。

ホームページをNPO法人セカンドスペースのスタッフの協力を受け、リニューアルしました。しかし内容が不十分のままになってしまい、アクセス数も減少しています。

3) サポーターグッズ

2017年度のサポーターグッズとして、カミューズシャルワールの生地を使用したペンケースの作成をアル・カイルアカデミーに依頼しました。1個200円でオーダー、1539個を8月中旬までに受領しました。作成は、先生・縫製コースの生徒に依頼していましたが、時期が断食月とアル・カイルアカデミーの試

験期間中に重なってしまったため縫製工房のスタッフが作成をしたと報告を受けました。これまでのサポーターグッズ（名刺入れ・ブックカバーなど）をイベントで販売しました。

4) ボランティア参加

コンテナ送り出し、会報や回収案内の発送作業、フリマやイベント出店（出展）、チャリティバザール、地域でのチラシ配布でボランティアの協力がありました。和服の専門知識のある方に、和服の整理やイベントでの販売で協力いただきました。

市川市の夏休み体験ボランティアでは、3名を受け入れました。

5) 活動報告会・交流会など

2017年度も団体会員、団体支援メンバーの協力を得ながら、様々な場所で活動説明会を行ないました。

●活動報告会・交流会

2017年 10月

- 18日（水）都小学校生活科授業 町探検受入
- 20日（金）～21日（土）パルシステム茨城 仕分け体験&交流会
- 23日（月）桜町高校定時制授業講師
- 24日（火）パルシステム千葉 千葉センターつどい
- 26日（水）生活クラブ茨城 水戸センター訪問
- 27日（金）FR うらやす定期総会 出席
- 30日（月）生活クラブ茨城 水戸センター仕分け体験

11月

- 17日（金）生活クラブ茨城 牛久センター仕分け体験&交流会
- 18日（土）ベイタウン朝市での古着回収
- 22日（水）JFSA 定期総会
- 26日（日）生活クラブ茨城 取手センター仕分け体験

12月

- 6日（水）浅草ライオンズクラブ地区会での活動説明会
- 8日（金）FR うらやす定例会

2018年 1月

- 8日（月）生活クラブ千葉グループ新年交流会

2月

- 3日（土）豊島区社会貢献活動見本市
- 24日（土）生活クラブ茨城 仕分け体験（土浦）

3月

- 2日（金）生活クラブ茨城 水戸センター仕分け体験&交流会
- 3日（土）ワーカーズコレクティブ千葉県連合会 25周年記念イベント
- 4日（日）大地を守る会 オーガニックフェスタ
- 26日（月）生活クラブ茨城 取手センター仕分け体験&カレー作り交流会

4月

- 19日（木）生活クラブ虹の街柏ブロック総代会
- 20日（金）生活クラブ虹の街千葉ブロック総代会
- 21日（土）ベイタウン朝市（千葉幕張ベイタウン 古着回収）
- 27日（金）生活クラブ埼玉 越谷センター学習会
- 29日（日）FR 四街道定期総会

5月

- 19日（土）ベイタウンまつり（千葉幕張ベイタウン 古着回収）
- 24日（木）企業組合あうん 定期総会
- 25日（金）せっけんの街定期総会
- 30日（水）ワーカーズ連定期総会、生活クラブ埼玉 JFSA 東葛センター見学

6月

- 2日（土）NPOクラブ定期総会
- 5日（火）アーシアン定期総会
- 14日（木）ユニバーサル就労ネットワーク定期総会
- 19日（火）生活クラブ虹の街総代会

7月

- 3日（火）生活クラブ茨城牛久センター 仕分け体験&交流会
- 5日（木）生活クラブ茨城交流会、パルシステム千葉本部訪問

- 6日(金) アーシアン主催交流会(松葉町)
8月
 3日(金) パルスシステム千葉 活動説明会&交流会、市川夏休み体験ボランティア
 袖ヶ浦生涯学習センター活動説明会、生活クラブ茨城 取手センター交流会
 5日(日) 生活クラブのエコフェス(生活クラブ埼玉)
 25日(土) ベイタウン夏祭り2018(千葉幕張ベイタウン 古着回収)
9月
 6日(木) 千葉県生涯大学校京葉学園 講師
 21日(金) パルスシステム千葉東金センターつどい

●市民活動と連動した企画(販売)

2017年 10月

- 8日(日) 土建まつり
 9日(日) エコメッセちば
 13日(土) ~14日(日) kapre 着物市
 21日(土) うらやす市民まつり
 22日(日) パルスシステム千葉のだ生協祭り

11月

- 11日(土) ~12日(日) 支援バザール(船橋駅北口デッキ)
 11日(土) 浦安着物市
 19日(日) ソラシェア収穫祭(匝瑳市)、おゆみの文化祭
 25日(土) とんぼ舎さくら直販会
 26日(日) ぼっぼの市(稲岸公園)

12月

- 3日(日) 四街道みそら集会所バザー
 10日(日) JFSA 千葉チャリティバザール
 16日(土) とんぼ舎さくら直販会
 17日(日) kapre 冬のバザール

2018年 1月

- 24日(土) とんぼ舎さくら直販会

2月

- 4日(日) 着物市(生活クラブ虹の街 スペース渚)
 10日(土) 生活クラブ東京23区南大田センター展示会

3月

- 4日(日) 着物市(生活クラブ虹の街 柏センター)
 24日(土) 松戸みらいフェスタ
 25日(日) お蔵フェスタ

4月

- 8日(日) ぼっぼの市(稲岸公園)
 22日(日) 新松戸中央公園チャリティフリマ
 28日(土) ~29日(日) 支援バザール(船橋駅北口デッキ)

5月

- 19日(土) とんぼ舎さくら直販会
 27日(日) kapre 初夏のバザール

6月

- 10日(日) JFSA 千葉チャリティバザール
 16日(土) 100万人のキャンドルナイト@増上寺(大地を守る会)

7月

- 4日(水) ~7日(土) FR うらやすリサイクルゆかた市
 7日(土) 生活クラブ東京大田センター展示会
 21日(土) とんぼ舎さくら直販会

8月

- 18日(土) とんぼ舎さくら直販会

9月

- 8日(土) 千葉センター軒先市

5. 研修

下記の日程で研修を行ないました。協力団体と共催した公開学習会の検討は実施できませんでした。JFSA 主催の学習会を定期総会にあわせて行ないました。

- ・2017年11月22日 「バングラデッシュ移民の人々から見たパキスタンのスラムの暮らし」

講師：小野 道子氏（東洋大学大学院非常勤講師・元ユニセフパキスタン事務所子ども保護官）

連続講座「古着回収はどうあるべきか」（主催：持続可能な消費研究会、（一社）地域資源発掘 ASAA、主婦連合会）に参加し、講座企画に協力しました。古着リサイクルの現状について多様な視点からの意見を聞く機会になりました。

- ・2017年10月2日 第1回 「古着回収の現状とアンケート報告結果」

講師：中野 聡恭氏（ナカノ(株) 代表取締役会長）・川嶋 庸子氏（（一社）地域資源発掘 ASAA）

- ・2017年11月15日 第2回 「“古着”と開発途上国の暮らし」

講師：福西 隆広氏（アジア経済研究所地域研究センターアフリカ研究グループ 研究グループ長）

- ・2018年1月23日 大討論会 「今後の古着回収はどうあるべきか？」

- ・2018年2月8日 第3回 「アフリカの古着流通—タンザニアを事例に—」

講師：小川 さやか氏（立命館大学先端総合学術研究科・准教授）

- ・2018年6月21日 特別企画 「古着販売の今」

講師：三村 哲広氏（株トレード 代表取締役）

- ・2016年度から生活クラブ虹の街、有限会社ユーズ、企業組合あうんとともに片付け事業会議に参加してきました。その事業に関連する団体の見学会と学習会に参加しました。

- ・2018年4月11日 ワーカーズ・コレクティブはっぴいさんの“はっぴい&きゅりー暮らしサポート事業”見学会（片付け事業検討会議）

- ・2018年5月14日 “しげんカフェ”学習会 主催：生活クラブ・東京

講師：浅井 直樹氏（（一社）しげんカフェシステムズ代表理事）

広報（チラシ、リーフレットの作成）についての学習会に参加しました。

- ・2018年9月27日 「団体の魅力を伝えよう！1日で身につく広報講座」

主催：四街道みんなで地域づくりセンター

講師：林田 全弘氏

6. 多様な団体との連携

1) 地球市民交流基金アーシアン

AKBG 縫製工房への試作品製作の依頼を受けて、エプロンとロマール（大判のハンカチ）は販売品とすることになりました。7月の招日では、縫製工房スタッフリーダーのサルマさんの招日を希望され、渡航費用の一部が寄付されました。アーシアン主催の招日交流会に、招日した3名とともに参加しました。

アル・カイル職業訓練所の運営費支援の寄付が行なわれました。

アル・カイルアカデミーの給食費の支援に、アーシアンの販売収益の一部が寄付されました。

2) NPO クラブ

理事会に出席しました。古着回収やイベントへの参加を呼びかけました。NPO クラブが運営する多世代地域交流拠点おおなみなみで販売協力団体として古着の委託販売を行ないました。定期総会の学習会「そうだったのか SDG s」で事例報告を行ないました。

3) ワーカーズコレクティブ千葉県連合会

25 周年記念イベント、総会に参加しました。千葉市、柏市での着物市を、(企) ワーカーズ・コレクティブ回轉木馬と一緒に行ないました。

4) FR うらやす、FR 四街道、FR 佐倉

FR 四街道：総会で活動報告をしました。AKBG 縫製工房への寄付、コンテナ送出しボランティア協力、招日交流、地域イベントでの販売などに協力をいただきました。

FR うらやす：総会で活動報告をしました。アル・カイルアカデミーコンピュータークラスへの寄付、コンテナ送出しボランティア協力、招日交流、地域イベントでの販売などに協力をいただきました。

FR 佐倉：活動収益の一部を寄付していただきました。

連続講座「古着回収はどうあるべきか」への参加を呼びかけ、3 つの団体のメンバーが参加されました。

5) 団体会員、団体支援メンバー

回収協力団体では回収の広報を定期的にしていただき、メンバーの方たちの回収参加、イベントなどの出展、招日交流などに協力をいただきました。

- ① 大地を守る会（回収協力団体）・・・招日交流、古着送り出しコンテナ積み込み、事務局の方のパキスタン訪問と写真展の開催、イベント出展とイベント会場での古着回収に協力していただきました。
配送車での古着回収は今年度第 1 回の回収までとなりましたが、大地を守る会と合併したオイシックスでも回収への協力が始まり、オイシックスの職員の方にパキスタン派遣に同行していただきました。
- ② パルシステム千葉（回収協力団体）・・・招日交流、イベント出展、回収&選別体験企画開催、センター祭りと生協祭り出展、古着送り出しコンテナ積み込み、パキスタンカレー講習&活動報告会開催に協力していただきました。また、今年度第 3 回の古着回収では、3 つのセンターでチラシ配布をしていただき、回収量が大きく増えました。
- ③ 生活クラブ・東京（回収協力団体）・・・招日交流、配達便回収（ベイセンター、年間 2 回）に協力していただきました。広報誌に記事を掲載して活動を紹介していただきました。初めての試みとして、センター展示会での古着回収と販売に協力していただきました。生活クラブ・東京 50 周年記念企画として、縫製工房製品の取り組みが決まりました。
- ④ 生活クラブ虹の街（回収協力団体）・・・招日交流、配達便による古着回収（年間 3 回）、デポー（生活クラブの店舗）での回収（年間 6 回）と古着販売、古着送り出しコンテナ積み込みに協力していただきました。ぽっぽの市に出店していただきました。
- ⑤ ボラン広場（回収協力団体）・・・回収に協力していただきました。
- ⑥ 社会福祉法人生活クラブ風の村・・・事業所での地域イベントに継続して出店しました。JFSA 千葉ショップで始まった「軒先市」に、とんぼ舎佐倉に出店していただきました。
- ⑦ はぎれくらぶ麻の葉・・・和服整理と販売のボランティア、和服販売企画に協力していただきました。
- ⑧ 生活クラブ茨城（回収協力団体）・・・配達便による古着回収（年間 3 回）とその後の仕分け&交流会開催、古着送り出しコンテナ積み込み、学習会の開催、招日交流、イベント出展に協力していただきま

した。

- ⑨ グリーンコープ・・・役員と理事の方がパキスタンを訪問しました。グリーンコープ食育ワーカーズから、縫製工房にエプロンのオーダーをいただきました。
- ⑩ パルシステム茨城（回収協力団体）・・・招日交流、学習会&古着回収・選別体験企画開催に協力していただきました。
- ⑪ 生活クラブ埼玉（回収協力団体）・・・招日交流、イベント出展、見学会、越谷センターでの学習会開催に協力していただきました。大宮支部から地域での回収協力の提案をいただきました。

6) 他のNPO/NGOとの交流

児童労働反対世界デーキャンペーンに賛同し、6月の千葉センターチャリティバザールを開催しました。また、パキスタン・ジャパン・ジャスミン協会の方がJFSAを来訪されました。

7) 企業との協力関係

JFSA 主催のバザールでは、周辺の事業所などに駐車場などをお借りしました。西ノ宮株式会社（千葉センターそばの印刷会社）から、店舗什器などを寄付いただきました。ベイトウンまつり（千葉市美浜区 5月）では、みずずユナイテッド幕張ベイトウン店の店舗前を古着回収のために無償でお借りすることができ、古着や毛布などの回収を行ないました。ベイトウン夏祭り（千葉市美浜区 8月）でも商店会の協力を受けチラシをまき、古着や毛布の回収を行なうことができました。

8) APF（互恵のためのアジア民衆基金）との連携

APF 総会（於福岡）にムザヒル氏とともに参加しました。総会后、グリーンコープ主催の学習会に参加し、グリーンコープが復興支援を行なっている熊本地震の被災地にも訪問しました。また、ハンサリム連合が2回目の古着や毛布などの送り出しを行ないました。

9) 社会福祉法人グリーンコープ

ファイバーリサイクル事業部の方がコンテナの到着に合わせて、パキスタンを訪問しました。

10) ユニバーサル就労ネットワーク

総会と学習会に参加しました。

7. アル・カイルアカデミーの教育・連帯事業に関わるパキスタンの人々との交流

1) 招日

以下の日程で招日を行ないました。

2017年10月19日～27日 ムザヒル氏、カユーム氏

2018年7月2日～7月9日 ムザヒル氏、タスニーム氏、サルマ氏(縫製工房リーダー)

滞在中は、協力団体の訪問、イベントへの参加、コンテナ送り出し作業の参加などを行ないました。

2) 事務局派遣の同行

オイシックス・ラ・大地株式会社から2名、環境まちづくり NPO エコメッセ理事長、古着ショップ「vintage clothing ALASKA」から2名、ハンサリム生協連合から4名、グリーンコープ連合から6名が、事務局派遣に同行し、パキスタンを訪問されました。また、JFSA 千葉ショップのアルバイトスタッフ1名、ボランティアが1名、事務局派遣に同行しました。

8. 危機管理の充実

1) 国内事業

定例のスタッフミーティングを行ない、安全管理に努めました。リスクマネジメントマニュアルの改訂には至りませんでした。

2) 海外事業

3月の派遣時に現地と日本をスカイプで結び、改訂版危機管理マニュアルに沿って狂犬病を想定したシミュレーションを実施しました。8月派遣時に救急箱(置き薬)を滞在先へ設置しました。パキスタン国内の病院の確認や緊急時連絡先の更新ができませんでした。